

藤井(深)委員

我が会派の西村議員が、第 1 回定例会、2 月 23 日に特別支援学校における政治参加教育についてということで質問させていただきました。今、さとう委員からもお話ありましたが、私からは、小・中学校の方の話を進めさせていただきます。この一般質問のときに、西村議員からはじめに取り上げていたと思いますが、一つには、障害のある生徒の政治参加を円滑に進めるには、生徒一人一人の特性や障害の状態に応じて、民主主義の意義をはじめ、政治や選挙の仕組み、実際の投票の仕方等、分かりやすく説明し理解させるなど、指導面での工夫を行う必要があるという点。それからもう一点は、特別支援学校に在学中はもちろん、卒業後も政治や選挙の意義を適切に理解した上で、主体的に選挙権等の権利を行使することができる資質を身に付けることが必要ということで、この 2 点を挙げさせていただいて、教育長に質問をさせていただきました。

先ほども言いましたけれども、重複しないで、私の場合は小・中学部の生徒に対する質問をさせていただきたいと思います。

まず最初ですけれども、特別支援学校の小・中学部で、学習活動において特別な配慮をしながら、これまでも政治的教養を育む教育に取り組んできたと思っておりますけれども、まず、どういった考えで取り組んでいるのか、お聞きしたいと思います。

特別支援教育課長

先ほど答弁させていただいた中では、特別支援学校高等部の取組におきましては、県立高等学校の取組を参考にして進めておりますが、御承知のように特別支援学校には幼稚部から小・中学部、高等部の生徒が在籍しております。小・中学部の政治的教養を育む教育におきましては、まず、障害があるなしにかかわらず、小・中学校における取組を参考に進めてまいりたいと考えております。

特別支援学校におきましては、小・中学校と同じように、児童・生徒が政治や社会の諸問題に関心を持ち、多面的、多角的に課題を考えることにより、より良い社会をつくっていくために、他者と協働しながら様々な課題を解決して、主体的に社会参画していくといった資質や能力が大切であると考えております。

委員御指摘のように、これまでの特別支援学校の小・中学部におきましては、学習指導要領に基づきまして集団生活の中で役割を理解する、自分の意見を述べたり、相手の立場を考えたりして、互いに協力し合うことなどについて取り組んでまいりました。さらに、児童・生徒一人一人の障害の状態や生活経験を踏まえ、学習内容を個別に計画する必要があります。体験的な活動を効果的に取り入れ、具体的な理解を深め、知識、技能を獲得できるように工夫していくことが大切であると考えております。

藤井(深)委員

今御答弁いただいたとおり、個別の計画も立てていかないといけないところで、様々、時間だとかいろんな形で大変だとは思いますが、いわゆる障害のあるなしにかかわらずということで、小・中学校では、各教科や特別活動の授業で取り組んでいると思うんですが、特別支援学校の小・中学部では、政治的教養についてどの教科、領域で

扱うのか、お聞きしたいと思います。

特別支援教育課長

特別支援学校の授業は、小・中学校と同じように行っている場合と、児童・生徒の障害の種別や、その程度に応じて行っている場合とがございます。こうした中で、政治的教養につきましては、小・中学校と同様に社会科や特別活動、総合的な学習の時間等で取り組む場合もございます。さらに、知的障害のある児童・生徒につきましては、生活科や教科領域を合わせた授業、特別活動等で取り組む場合がございます。

藤井(深)委員

それから、小・中学校では、生徒会の選挙など取り組んでいる事例があると承知してはいますが、特別支援学校の小・中学部では、具体的に授業で行っている事例があるかどうか、お聞きしたいと思います。

特別支援教育課長

特別支援学校の具体的な事例ですけれども、小・中学校と同様に児童・生徒会の選挙の取組がございます。また、特別支援学校には、遊びの指導というものがあります。この中で、ルールを守ることや集団の中で簡単な役割を果たすことを通して、他者の考えを知ったり、自分の考えを整理したりする学習に取り組んでおります。さらに、校外学習等で、公共施設や公共交通機関を利用することによって、身近な社会生活に対する関心を高め、社会の仕組みについての理解を図っております。

このように、自分の身近な集団生活や社会生活への関心を高め、理解を図ることが、政治的教養を育む基礎、基盤となっていると考えています。

藤井(深)委員

それから、今後、特別支援学校の小・中学部において、政治的教養を育む教育を進めていく上で、こういった課題があると考えているか、お聞きしたいと思います。

特別支援教育課長

特別支援学校の小・中学部におきまして、これまで政治的教養を育む教育の視点で取り組んだ事例というのは非常に少ないことがあります。児童・生徒一人一人の障害の程度や状態に応じて学習内容や学習方法の工夫を今後積み重ねていくことが、大きな課題であると考えております。

また、授業の実施に当たりましては、体験を通して、自分と様々な事象の関わりから学ぶことが非常に大切であります。個々の児童の実態に即して、生活に結び付いた学習活動を積極的に行う必要があると考えています。

藤井(深)委員

実態に即して、様々な課題はあると思いますけれども、特別支援学校の小・中学部で、この政治的教養を育む教育について、今後どのような形で取り組んでいこうとされているか、お聞きしたいと思います。

特別支援教育課長

特別支援学校で取り組む政治的教養を育む教育につきましては、小・中学校における指

導の在り方と同様に、直接社会や政治を扱うだけではなく、生活する中で身近な問題を解決することを通じた学習を積み重ねていきたいと考えます。また、政治的教養を育む教育的視点で考えますと、今後の指導目標あるいは指導内容を整理いたしまして、個別の教育指導計画に記載していく、そういった事柄についても検討していく必要があると考えております。

藤井(深)委員

今日、小・中学部の質問をさせていただいたんですが、そういった意味で、高校まで一貫して進めていっておられるなというのにはよく分かりましたので、それは是非、そのとおり進めていただきたいと思います。特に、これからこの社会の仕組みを、いわゆる自分の身近なところ、先ほど、こういう主権者教育というと、どうしても政治的なイデオロギーの部分だとか、国の全体の大きな話にもなりつつあるんですが、意外とこの政治参加していくのには、身近な部分からというのが非常に大事だと思いますので、そういった意味では、今、皆さんが取り組んでおられる、そういう身近なところから、また個々に話を進めていくという工夫が大事なところだと思いますので、是非進めていただきたいと思います。

先ほど、各会派からのいろいろ採点ミスの話もあって、教育委員会の皆さんの目がほとんどそっち側に集中してしまっているの、こういう特別支援学校の生徒の問題とかになると、どちらもちよっと、またおろそかになりがちの部分もあります。そこはそこで、きっちりと進めることは進めていただきたいと思いますが、どうしても目はそちらの方に行くんですけども、子供たちにしわ寄せがいかないように、教育委員会全体としてしっかり、引き続き取り組んでいただきたいということを要望して、質問を終わります。